

平成 28 年度

広島大学
スポーツ科学センター

年報

広島大学スポーツ科学センター

はじめに

平成 17 年に創設された本センターは、本学におけるスポーツに関する学士過程教育を企画・立案し、課外活動を支援するとともに、スポーツに関する研究及び地域社会との連携を推進することを目的とする学内共同教育研究施設であります。平成 23 年の改善案に伴い、教育部門、研究部門、課外活動部門、社会連携部門の 4 部門を組織し事業を展開しています。

教育部門では、教養教育の全学体制での実施という基本方針に基づき、体育系教員による「健康スポーツ科目」の安定した実施体制を構築し、学生と社会のニーズを反映した授業の計画・実施を行ってきました。今後さらに、その評価と改善を繰り返しながら、より質の高い教養教育の授業展開を目指しています。

研究部門では、スポーツ科学領域での学際的な研究を実施するとともに、スポーツ科学における最前線の研究成果を学ぶ機会として、スポーツ科学セミナーを開催し、各種研究領域での研究発表や、世界的に有名な研究者をお招きしての講演会開催、さらには教職員を対象にしての体力測定教室やプロジェクト研究など、学生から教職員まで幅広い範囲での事業を展開することができました。また、今年度はスポーツ医科学センターとの共催でシンポジウムを開催し、学内のスポーツ科学の基盤強化とさらなる発展に貢献することができたと考えます。

課外活動部門では、スポーツ系課外活動団体が実施する地域貢献事業（スポーツ教室や競技大会など）への補助として 5 事業を実施しました。500 人近い小中学生を対象に、本学学生を中心に行われるこの事業は、地域貢献はもとより、学生の指導力やマネジメント能力の向上学習にも非常に有用であり、さらなる拡大を考えております。また、体育会主催の「スポーツリーダーズセミナー」では、各クラブの幹部を対象に、講師をお迎えして、リーダーに必要な知識と実践の学習を行いました。

社会連携部門では、市民を対象とした公開講座を 2 講座行いました。生涯体育を目指した講義や実習、高齢者を対象とした健康・スポーツ指導など、多く参加者から高い満足度を得られました。本研究員が関与している学外団体主催の事業に対しても積極的に支援し、ジュニア選手の指導・育成や、指導者講習など、専門性を生かした事業を実施しました。研究員の多くの方が、大学における教育・研究活動と並行して、社会貢献活動に対しても積極的に参加していることがうかがえます。

2020 年には東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。広島県はもちろん我が国のスポーツの競技力向上に対する本センターの貢献も期待されるところです。今後とも各事業の充実を図るとともに、さらなる発展のための取り組みに挑戦していきたいと考えます。

平成 29 年 3 月 22 日

スポーツ科学センター長
出口 達也

目 次

はじめに	1
《平成 28 年度活動報告》	
Ⅰ. 平成 28 年度活動の概要	3
Ⅱ. 教育部門	
1. 教養教育「健康スポーツ科目」	5
Ⅲ. 研究部門	
1. スポーツ科学セミナー	8
2. ALL HIROSHIMA SPORTS SUMMIT 2017	10
3. 教職員体力づくり教室	11
4. 日常業務による疲労感と心のゆとり感に対する身体活動の効果	12
5. スポーツ選手へのコンディショニング及びリカバリー戦略の検討	14
Ⅳ. 課外活動部門	
1. 西体育館トレーニングルーム非常勤職員（PA）の推薦	15
2. 体育会主催「スポーツリーダーズセミナー」への協力	16
3. スポーツ系課外活動団体が実施する地域貢献事業	17
(1) 体育会陸上競技部主催「小学生陸上競技教室」	17
(2) 体育会柔道部主催「第 10 回フェニックス杯柔道大会」	18
(3) 体育会バレーボール部主催「第 21 回もみじ杯バレーボール大会」	19
(4) 体育会バスケットボール部主催「フェニックスバスケットボールクリニック」	20
(5) 体育会フットサル部主催「フットサル教室」	21
(6) スポーツメンタルトレーニング相談室の開設	22
Ⅴ. 社会連携部門	
1. 公開講座「スポーツを通じた健康学セミナー」	23
2. 公開講座「家でもできる健康体操」	24
3. 教職員テニス教室	25
4. 向原中学校メンタルトレーニング	26
5. 中高年のランニング教室	27
6. 広島陸上競技協会主催「小学生陸上競技出前講座」	28
7. 日本陸上競技連盟主催「JAAF 公認ジュニアコーチ養成講習会」	29
8. ハーティウォンツ・大塚製薬・広島大学スポーツ科学センター主催「すこやか健康セミナー」	30
9. 東広島市教育委員会等主催「バウンドテニス体験会」	31
10. オリンピック日本人金メダル第 1 号「織田幹雄」特別展	32
《諸会議》	
Ⅰ. スポーツ科学センター運営委員会・教員会・部門長会議	33
《組織》	
Ⅰ. スポーツ科学センター研究員	33

《平成 28 年度活動報告》

I. 平成 28 年度活動の概要

部門	事業	世話人	参加者
(1) 教育 部門長： 木庭康樹	①教養教育「健康スポーツ科学」	木庭康樹	スポーツ実習： 3,297 (3,156) 名 健康スポーツ科学 1,168 (1,174) 名
	②健康スポーツ科目の FD 研修会	木庭康樹	9 (17) 名
	③教養教育改革検討 WG の設置	木庭康樹	
	④他大学における教養教育会改革の現状調査	木庭康樹	
(2) 研究 部門長： 長谷川博	①「スポーツ科学セミナー」の実施	長谷川博	(105) 名
	②スポーツコーチ・医科学シンポジウム「ALL HIROSHIMA SPORTS SUMMIT 2017」の開催	出口達也	100 名
	③日常業務による疲労感と心のゆとり感に対する身体活動の効果：教職員を対象として	加藤荘志	
	④スポーツ選手へのコンディショニング及びリカバリー戦略の検討	長谷川博	
(3) 課外 活動 部門長： 上田毅	①西体育館トレーニングルーム非常勤職員の推薦	出口達也	20 (20) 名
	②体育会主催「スポーツリーダーズセミナー」への協力	東川安雄	136 (126) 名
	③スポーツ系課外活動団体が実施する地域貢献事業		
	ア) 体育会硬式庭球部主催「広大オープンテニス大会」	関矢寛史	(125) 名
	イ) 体育会柔道部主催「柔道教室」	出口達也	(80) 名
	エ) 体育会陸上競技部主催「小学 2120 生陸上教室」	東川安雄 出口達也	30 (30) 名 (300) 名
	オ) 体育会柔道部主催「第 9 回フェニックス杯柔道大会」	橋原孝博	(22) チーム
	カ) 体育会バレーボール部主催「第 20 回もみじ杯バレーボール大会」	上田毅	(320) 名
	キ) 体育会バスケットボール部主催「フェニックスバスケットボールクリニック」	木庭康樹	(9) 名
	ク) 体育会フットサル部主催「フットサル教室」		
④スポーツメンタルトレーニング相談室	関矢寛史		
(4) 社会 連携 部門長：	①公開講座「スポーツを通じた健康科学セミナー」	山崎昌博	延べ (120) 名
	②公開講座「家でもできる健康体操」	東川安雄	488 (262) 名

東川安雄	③教職員テニス教室 ④向原中学校メンタルトレーニング ⑤「中高年のランニング教室」 ⑥広島陸上競技協会主催「小学生陸上競技出前講座」 ⑦広島県教員団バレーボール部主催「平成28年度広島県バレーボール教室」 ⑧日本陸上競技連盟「JAAF 公認ジュニアコーチ講習会」 ⑨東広島市教育委員会等主催「バウンドテニス体験会」 ⑩ウォンツ等主催「さわやか健康セミナー」 ⑪広島県教育事業団「体力測定スタッフ（測定助手）」の学生派遣（協力） ⑫オリンピック日本人金メダル第1号「織田幹雄」特別展	関矢寛史 関矢寛史 和田正信 東川安雄 橋原孝博 東川安雄 磨井祥夫 東川安雄 東川安雄 東川安雄	24 (24) 名 延べ480名 52 (52) 名 2,010 (2,095) 名 33 (28) 名 136 (159) 名 42 (152) 名 延べ75名
(5) その他	・年次報告書の作成	出口達也	

() 内数値は平成27年度

Ⅱ. 教育部門

1. 教養教育「健康スポーツ科目」

1. 教養教育「健康スポーツ科目」

1.1 授業の目標

体力・健康づくりのための科学的理論を習得するとともに、自己の特性やスポーツの技能水準に適合したスポーツの実践を通じて、生涯にわたってスポーツを楽しむ態度・マナーや協調性等の社会的スキルを習得することを目標とする。

1.2 授業の内容

生涯にわたり健康を考える科目として、実習科目と講義科目をまとめて一つの科目区分をして提供する。実習科目には「スポーツ実習 A」、「スポーツ実習 B」（障害のある学生及び体力に自信のない学生対象）が、講義科目には「健康スポーツ科学」がある。

1.3 カリキュラムの概要

(1) スポーツ実習・健康スポーツ科学ともに、学部学科などの指定時限枠はない。学生はどの時限においても履修することができる。

(2) スポーツ実習では、安全面、施設・設備、授業効率等を考慮し、受講学生数の上限を設けている。原則として以下の受講者定員である。

スポーツ実習 A：バドミントン 54 名、テニス 48 名、バレーボール 40 名、卓球 48 名、バスケットボール 42 名、ソフトボール 40 名、サッカー 39 名、オリエンテーリング 50 名、スクーバ 40 名、ジョギング 25 名、フットサル 30 名、バウンドテニス 48 名、トレーニング 20 名、カヌー&野外実習（集中授業） 50 名、スキー実習（集中授業） 40 名。

スポーツ実習 B：10 名

健康スポーツ科学については、教室サイズ、実技を含む内容であることを考慮し、原則として 180 名を受講者定員とする。

(3) スポーツ実習の目的

スポーツ実習 A では、基礎的な体力に加え、スポーツの基本的スキルやルールの習得、さらにゲームでの適応力を身につける。個々のスポーツの基礎的な技術、作戦、ルールを学習し、生涯にわたり年齢・体力に応じた運動を行うことができる素地を養うことを目的とする。また、マナーや協調性などの社会的スキルを身につけることを目的とする。

スポーツ実習 B では、主に身体障害者・有疾患学生を対象とし、個人処方を基礎にして運動・スポーツを学ぶ。身体的障害・疾病あるいはその他の理由により、長期にわたり他のスポーツ実習科目を受講することが困難である学生及び体力に自信のない学生を対象とし、個人に適したスポーツ

を選択し実施する。また、障害に応じて、リハビリテーションを目的とした筋力トレーニングを行うこともある。

(4) 開講コマ数と受講者数

スポーツ実習

前期：スポーツ実習 A 46 コマ，スポーツ実習 B 1 コマ，受講者数 1,459 名

後期：スポーツ実習 A 46 コマ，スポーツ実習 B 1 コマ，受講者数 1,470 名

健康スポーツ科学

前期：6 コマ，受講者数 756 名

後期：7 コマ，受講者数 370 名

1.4 スポーツ実習 A の集中授業の内容

(1) マリンスポーツ&野外活動実習（前期）

日程：2016年8月28日（日）～8月31日（水）

参加費：50,000円（交通・宿泊費込み）

宿舎：YMCA 阿南国際海洋センター 〒779-1750 徳島県阿南市椿町那波江

担当教員：総合科学研究科教員3名およびTA2名

（和田 正信，長谷川 博，木庭 康樹，大学院生 TA：2名）

受講者：男子（4名），女子（4名），合計（8名）

*実習後，受講者に簡単なアンケート調査を行った。



(2) スキー実習（後期）

日程：2017年2月20日（月）～2月24日（金）（4泊5日）

場所：ルスツリゾートスキー場

参加費：99,000円（レンタル代は別途）

宿舎：ルスツリゾートホテル

〒048-1711 北海道虻田郡留寿都村字泉川13番地

担当教員：総合科学部教員4名

（船瀬 広三，関矢寛史，長谷川 博，木庭 康樹）

受講者：男子（21名），女子（20名），合計（41名）

受講資格：スキー初心者から上級者までのあらゆるレベルの者

*実習後，受講者に簡単なアンケート調査を行った。



Ⅲ. 研究部門

1. スポーツ科学セミナー

研究部門

平成 28 年度は、スポーツ科学セミナー2 件、教職員体力づくり教室、研究プロジェクト 2 件、ALL HIROSHIMA SPORTS SUMMIT 2017 の事業を実施した。

1. スポーツ科学セミナー

第 1 回

主催：スポーツ科学センター

日時：平成 29 年 1 月 10 日（火）14：30～16：00

場所：総合科学部 K103

世話人：長谷川 博（スポーツ科学センター研究員）

参加者：20 名

講師：中村 大輔 先生（国立スポーツ科学センター）

テーマ：リオデジャネイロオリンピックサッカー競技男子医科学サポート



概要：近年のオリンピックなどの主要な大会は、開催時期や環境条件、選手たちの生体負担度を考慮すると、以前に比べて過酷な環境である。その中でも選手たちは高い運動パフォーマンスを発揮しなければならないため、

暑さ対策やリカバリー対策などのさまざまな戦略は不可欠である。中村大輔先生には、「リオデジャネイロオリンピックサッカー競技男子医科学サポート」と題して、医科学的指標を用いた選手の疲労度の把握、短期決戦を乗り切るためのマネージメント方

法について詳しく解説していただいた。また、最終予選やオリンピック本番でのコルチゾールや血中乳酸、持久力テスト時の心拍数を用いたさまざまな医科学サポートについて多くの写真や映像で解説していただいた。参加者からは、具体的なコンディショニングチェック方法や科学的指標と競技パフォーマンスの関係などに関する質問があった。



リオデジャネイロオリンピック
サッカー競技男子チーム

第2回

主催：スポーツ科学センター

日時：平成29年1月30日（月）14：30～16：00

場所：総合科学部 K109

世話人：長谷川 博（スポーツ科学センター研究員）

参加者：60名

講師：Inigo Mujika（Associate Professor, Department of Physiology, University of the Basque Country, Spain）

テーマ：Elite performance and recovery strategy in the heat

2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催決定により、スポーツへの注目が一段と高まっている。競技レベルに関わらず、選手が怪我やオーバートレーニングを防ぎ、長期または短期間の中で試合に勝利し成功を収めるには心身ともにベストな状態（コンディション）をいかに保つことができるかが重要である。特にコンディションを維持・増進するためには、積極的休息、冷水療法、温冷交代浴、ストレッチング、睡眠、栄養、コンプレッションウェアの着用などのリカバリー戦略が注目されている。本年度は、コンディショニング及びリカバリーに関する具体的な取り組みを実施した。

- ・ 積極的休息（アクティブレスト）や身体冷却などのリカバリー戦略に着目し、実験室及び屋外フィールドで運動パフォーマンス（自転車を用いた間欠的運動能力、Yo-Yo 間欠性回復力テスト、20m 及び 40m スピード能力、アジリティ能力、垂直跳び）、心拍数、皮膚温、血中乳酸濃度などの生理的指標を測定し、それらの効果を検証した。

- ・ 広島大学の若手研究者、資格保有者（理学療法士、管理栄養士、トレーナー、日本サッカー協会公認コーチ等）、それらを目指す学生の実践の場を提供した。

- ・ 国内外の著名な専門家を招へいし、最新のコンディショニング及びリカバリー戦略を学んだ（スポーツ科学セミナー）。

来年度以降は、アスリートのパフォーマンス向上の目的だけでなく、日常スポーツを行う者までの幅広い層においてその応用が可能となるようなコンディショニング及びリカバリー戦略を検討する。また、広島における産学官が連携し、各種スポーツ競技団体が競技力向上、コンディショニング及びリカバリーを目的としたキャンプを行うことのできる街づくりを推進する。

講演の様子

講師 Inigo Mujika 先生



2. ALL HIROSHIMA SPORTS SUMMIT 2017

「ALL HIROSHIMA SPORTS SUMMIT」

代表者：出口 達也（スポーツ科学センター研究員）

- ・ 目的 スポーツ現場で生じる問題点に対して、スポーツ医科学をどのように活用するか、現場と研究者が議論し、一体となって問題を解決していくための情報交換をする
- ・ 主催 広島大学スポーツ科学センター・広島大学病院スポーツ医科学センター
- ・ 後援 広島県体育協会 広島県障がい者スポーツ協会 広島市スポーツ協会
広島市障がい者スポーツ協会
NPO 法人広島トップスポーツクラブネットワーク（トップス広島）
- ・ 日時 平成29年3月18日（土）9時30分
- ・ 会場 広島国際会議場 中会議室コスモス
- ・ 参加資格 スポーツ選手・スポーツ指導者・トレーナー・スポーツ分野の研究者等スポーツに関わる職種の方またはそれらを目指している方

・ シンポジウム

「スポーツ現場とスポーツ医科学の融合を目指して」

司会：出口 達也（スポーツ科学センター長）

シンポジスト

- | | | |
|----------|--------|------------------|
| スポーツ医学 | 中前 敦雄 | （広島大学病院 整形外科 医師） |
| スポーツ心理学 | 関矢 寛史 | （スポーツ科学センター研究員） |
| スポーツ栄養学 | 永澤 貴昭 | （安田女子大学家政学部） |
| スポーツ生理学 | 長谷川 博 | （スポーツ科学センター研究員） |
| バイオメカニクス | 塩川 満久 | （県立広島大学 保健福祉学部） |
| スポーツ団体 | 河辺 捷義 | （トップス広島 副理事長） |
| パラスポーツ選手 | 大前 千代子 | （日本車椅子テニス協会） |
| スポーツ指導者 | 野村 謙二郎 | （広島東洋カープ元監督） |





3. 教職員体力づくり教室

教職員体力づくり教室

世話人：加藤 荘志（スポーツ科学センター研究員）

昨年度まで教職員を対象としたウォーキング教室を開催した。その過去の参加者に対して、スポーツ・運動に係る教室の開催について希望調査を行ったところ、一部の受講者から、ウォーキング、ヨガ、自宅で行える筋力トレーニング、ジム施設を使ったトレーニング、などの要望が出された。今年度当初は教室開催を予定しておらず、開催に係る予算措置はなかったが、提供しうるプログラムを検討した結果、少数（10名以下）の参加者に限定して体力づくり教室を開催することにした。講師を加藤荘志（スポーツ科学センター研究員）が担当した。

受講申込者は7名（全て女性、うち1名は広島大学の退職者）で、このうち昨年度までウォーキング教室に参加した方が6名であった。会場は広島県立リハビリテーションセンター・スポーツ交流センター（東広島市西条町田口295-3）を利用した。以下に示す日程で、毎回18：30頃から20：30頃まで、汗を流した。

- 第1回 平成28年7月26日（火） 筋力と全身持久力の向上プログラム（6名参加）
- 第2回 平成28年8月26日（金） 筋力と全身持久力の向上プログラム（6名参加）
- 第3回 平成28年9月16日（金） 筋力と全身持久力の向上プログラム、卓球（4名参加）
- 第4回 平成29年3月 7日（火） 筋力と全身持久力の向上プログラム、卓球（5名参加）

第1回から第4回までの「筋力と全身持久力の向上プログラム」では、筋力トレーニングと、心拍数を運動強度の指標に用いた全身持久力トレーニングを行った。前者のプログラムでは、トレーニングマシンを、後者では自転車エルゴメーターを、それぞれ使用した。

さらに、このセンターには卓球室があるので、第3回と第4回のそれぞれ後半には「卓球」もプログラムの一環に取り入れた。卓球は老若男女を問わず楽しめるスポーツであるが、基本的な技術を習う機会はあまりない。しかし、ごく基本的な技術さえ身につければ、ルールを少し工夫することで誰でも取り組める種目になる。卓球のプログラムの終了後、今回の参加者から「これまで球技が苦手で、卓球のプログラムに取り組むまでは憂鬱だったが、やってみるととても楽しかった。今後も取り組みたい」といった感想も聴かれた。

来年度における本講座の開講は未定であるが、少なからず教職員からのニーズがあれば、可能な限り応えていきたい。

4. 日常業務による疲労感と心のゆとり感に対する身体活動の効果

4. プロジェクト研究

4-1. 日常業務による疲労感と心のゆとり感に対する身体活動の効果：教職員を対象として
研究代表者：加藤 莊志（スポーツ科学センター研究員）

研究の背景と目的

近年、われわれの労働環境は急速に様変わりしつつあるが、大学の業務はどれくらい忙しいのか、大学の教職員は日常業務によってどのくらい疲れているのか、といったことは十分に明らかにされていない。さらに大学の日常業務の大半がデスクワークで構成されており、身体を動かす（スポーツに限定しない）機会が減っている可能性もある。

今回、質問紙による日常業務の忙しさや疲労の測定と、身体活動量の経時測定とを併用して、

- 1) 私たちの日常業務はどのくらい忙しいのか（「忙しさ」の測定）
- 2) 日常業務により、私たちはどれくらい疲れているのか（「疲労感」の測定）
- 3) 日常業務により、私たちの心のゆとりはどうなっているのか（「心のゆとり感」の測定）
- 4) 上記3項目に対して、身体活動量がどのように影響を与えるのか（身体活動量の測定）

について明らかにすることを試みた。

方法

a) 被験者

広島大学に勤務する成人女性10名で、被験者の年齢構成は30代から60代までであった。

b) 「忙しさ」・「疲労感」・「心のゆとり感」の測定

先行研究をもとにアンケート用紙を作成した。「忙しさ」の測定には5件法（忙しくない・少し忙しい・まあまあ忙しい・かなり忙しい・とても（目が回るほど）忙しい）によるスケールを用いた。「疲労感」の測定には日本疲労学会が提案した「疲労感VAS（Visual Analogue Scale）検査」を用いた。「心のゆとり感」の測定には、富田（2008）が開発した「心のゆとり感尺度」から11個の設問項目を選択して用いた。全項目への回答に要する時間が10分間程度となるよう、質問紙の構成に配慮した。被験者には毎日の終業直後に回答するよう教示したが、時間的・精神的余裕がなければ帰宅後の落ち着いた時の回答でも構わないとした。

c) 活動量の測定

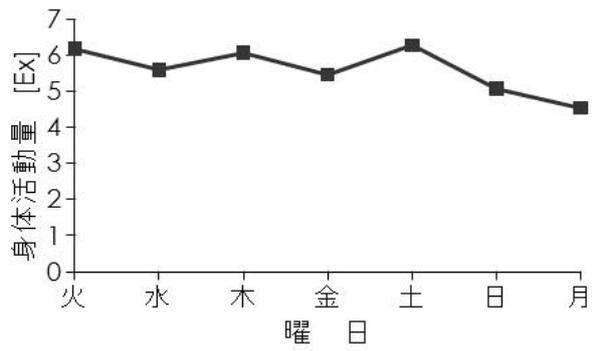
オムロン社製活動量計（HJA-750C）を使用した。この製品は23gと小型軽量で、クリップにより衣服の上から簡便に装着できる。被験者には、支障がない限り、終日装着するよう教示した。ただし、トイレ・激しい運動中・更衣中・入浴時・就寝時には外すことを認めた。

d) 測定期間

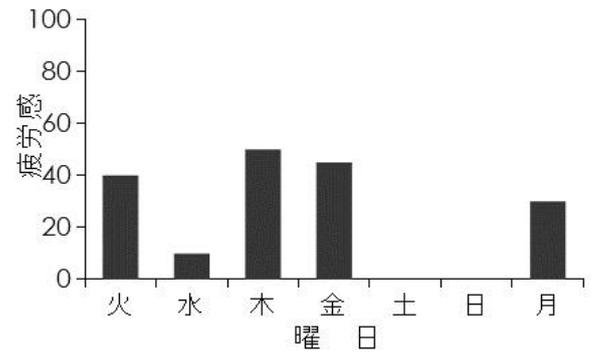
身体活動量の測定を計7日間（例えば月曜から翌週日曜まで）、「忙しさ」・「疲労感」・「心のゆとり感」の測定を就業日の計5日間（例えば月曜から金曜まで）、実施した。

結果と今後の展望

以下に被験者1名による結果を示す。今年度は測定方法の整備に時間を取られ、データ収集と解析に十分な時間をかけられなかった。今年度集めたサンプル数は少数であるため、来年度はデータの収集と解析に努め、疲労感と心のゆとり感に対する身体活動の影響について明らかにしていきたい。



一週間における身体活動量の推移



曜日による疲労感の違い

5. スポーツ選手へのコンディショニング及びリカバリー戦略の検討

3-2. スポーツ選手へのコンディショニング及びリカバリー戦略の検討

研究代表者：長谷川 博（スポーツ科学センター研究員）

2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催決定により、スポーツへの注目が一段と高まっている。競技レベルに関わらず、選手が怪我やオーバートレーニングを防ぎ、長期または短期間の中で試合に勝利し成功を収めるには心身ともにベストな状態（コンディション）をいかに保つことができるかが重要である。特にコンディションを維持・増進するためには、積極的休息、冷水療法、温冷交代浴、ストレッチング、睡眠、栄養、コンプレッションウェアの着用などのリカバリー戦略が注目されている。本年度は、コンディショニング及びリカバリーに関する具体的な取り組みを実施した。

- ・ 積極的休息（アクティブレスト）や身体冷却などのリカバリー戦略に着目し、実験室及び屋外フィールドで運動パフォーマンス（自転車を用いた間欠的運動能力、Yo-Yo 間欠性回復力テスト、20m及び40mスピード能力、アジリティ能力、垂直跳び）、心拍数、皮膚温、血中乳酸濃度などの生理的指標を測定し、それらの効果を検証した。

- ・ 広島大学の若手研究者、資格保有者（理学療法士、管理栄養士、トレーナー、日本サッカー協会公認コーチ等）、それらを目指す学生の実践の場を提供した。

- ・ 国内外の著名な専門家を招へいし、最新のコンディショニング及びリカバリー戦略を学んだ（スポーツ科学セミナー）。

来年度以降は、アスリートのパフォーマンス向上の目的だけでなく、日常スポーツを行う者までの幅広い層においてその応用が可能となるようなコンディショニング及びリカバリー戦略を検討する。また、広島における産学官が連携し、各種スポーツ競技団体が競技力向上、コンディショニング及びリカバリーを目的としたキャンプを行うことのできる街づくりを推進する。



IV. 課外活動部門

1. 西体育館トレーニングルーム非常勤職員（PA）の推薦

平成 28 年度西体育館トレーニングルーム非常勤職員（PA）に以下の 20 名を推薦した。

課外活動団体	人数
柔道部	4
陸上競技部	4
バスケットボール部	7
サッカー部	2
バレーボール部	1
ラグビー部	1
野球部	1

2. 体育会主催「第 62 回スポーツリーダーズセミナー」への協力

主 催：広島大学体育会
共 催：広島大学スポーツ科学センター
日 時：平成 29 年 2 月 28 日（火）
場 所：総合科学部 K107 講義室、西体育館
講 師：藤田 竜也（株式会社 ATHER）
田崎萌奈美（株式会社 ATHER）
日山 亨（広島大学保健管理センター准教授）
横山美栄子（広島大学ハラスメント相談室教授）
東川 安雄（広島大学大学院教育学研究科教授）
世話人：東川 安雄（スポーツ科学センター研究員）

参加者：136 人

内容：

開講式

実技 「ケガの予防について」

講演 1 「飲酒事故の防止のために」

講演 2 「ハラスメントのないキャンパスライフのためにースポーツリーダーとして認識しておくべきことー」

講演 3 「チームを成功に導き、メンバーを成長に導くリーダーシップ・コーチング」

討論会：テーマ①「指導者不足の中、どのようにして選手の力を高めていくのか」

テーマ②「マネージャーのチーム内における役割及び目指すべきマネージャー像について」

懇親会

閉講式



3. スポーツ系課外活動団体が実施する地域貢献事業

(1) 体育会陸上競技部主催「小学生のための陸上競技教室」

団体名 : 体育会陸上競技部

事業名 : 小学生のための陸上競技教室

開催日時 : 平成 28 年 9 月～11 月の 10 日, 毎回 16 : 00～18 : 00

開催場所 : 東広島市立三ツ城小学校

参加者 (相手先) : 東広島市内在住小学生 30 人

参加人数 (本学学生) : 3 人

内容 : 例 1) ジョギング 400m
体操・ストレッチ
ネコとネズミ×10 回
ミニハードル 10 台×5 種目
40m エンドレスリレー(各自 5 回)

例 2) ジョギング 400m
体操・ストレッチ
ケイドロ(警察と泥棒)15 分程度
ラダートレーニング 10 種目×各 2 回
50m 競走×2 回
50m ハードル走×2～3 回

写真 :



(2) 体育会柔道部主催「第10回フェニックス杯柔道大会」

主 催：広島大学体育会柔道部

日 時：平成28年11月3日

場 所：広島大学西体育館柔道場

参加者：約300名

概 要：広島大学体育会柔道部主催のもと、広島県内はもとより、九州、中国、四国、近畿から25校、約300人の男女中学生が集い行われる柔道大会。

広島大学柔道部と東広島市内の道場、中学柔道部の交流、強化、発展を目指しスタートした事業で、大会の準備から試合の審判、運営まで広島大学柔道部員と中学柔道部員、教員、保護者が行っている。

本大会に出場した選手の中には、日本代表選手になった者もあり、柔道の普及や選手発掘の一端も担っている。

大きな怪我人もなく、大盛況のうちに大会を終えることができた。

(会場写真)



(3) 体育会バレーボール部主催「第20回もみじ杯バレーボール大会」

第21回もみじ杯小学生バレーボール大会

主催 : 広島大学体育会バレーボール部
広島大学スポーツ科学センター

後援 : 東広島市小学生バレーボール連盟
東広島市バレーボール協会

協賛 : ミズノ株式会社

開催日時 : 平成28年11月3日(木・祝) 8:30~17:00

開催場所 : 広島大学北体育館・西体育館

世話人 : 橋原 孝博

参加チーム :

【女子の部】15チーム

豊栄バレーボールスポーツ少年団 東西条スポーツ少年団
八本松バレーボールクラブ 御藪宇スポーツ教室 三ツ城スポーツ少年団
川上スポーツ少年団 小谷スポーツ少年団
高屋西バレーボールスポーツ少年団 中黒瀬バレーボールスポーツ少年団
高屋東スポーツ少年団 西条JVC 三永ジュニアバレーボールクラブ
造賀スポーツ少年団 上黒瀬JVC 板城クラブジュニアスポーツ少年団

【男子の部】8チーム

高美が丘バレーボールスポーツ少年団 三ツ城スポーツ少年団
久芳バレーボールスポーツ少年団 八本松バレーボールクラブ
小谷スポーツ少年団 川上三永合同 西志和スポーツ少年団
寺西バレーボールスポーツ少年団

試合結果 :

【女子の部】

優勝 八本松バレーボールクラブ
準優勝 三ツ城スポーツ少年団
第3位 東西条スポーツ少年団
第3位 西条JVC

【男子の部】

優勝 八本松バレーボールクラブ
準優勝 小谷スポーツ少年団
第3位 寺西バレーボールスポーツ少年団
第3位 久芳バレーボールスポーツ少年団



(4) 体育会バスケットボール部主催

「フェニックスバスケットボールクリニック」

主 催(或いは共催)：スポーツ科学センター

日 時：平成 28 年 4 月～6 月

場 所：広島大学西体育館，おりづる等

講 師：広島大学体育会バスケットボール部

世話人：上田 毅（スポーツ科学センター研究員）

参加者：のべ約 40 名

概 要：地域の小学生，中学生，高校生を対象に，体育会バスケットボール部がバスケットボールクリニックを実施した。また健常な子供だけでなく障害のある子供に対しても毎回 2～4 人のバスケットボール部員が出かけていって，週 1 回，2 ヶ月程度のバスケットボールクリニックを実施した。ここでは，毎回楽しく子供たちとの交流を行った。



(5) 体育会フットサル部「フットサル教室」

団体名 : 広島大学体育会フットサル部 F.DO

事業名 :

開催日時 : 2016年10月15日(日) 15:00~17:30

開催場所 : 広島大学東広島キャンパス西体育館

参加者 : 地元の小学生、小学生の保護者、フットサル部員

参加人数 (相手先) : 6人

参加人数 (本学学生) : 12人

内容 : ①パス練習

②シュート練習

③ファー詰め

④ゲーム

写真 : 4枚 (集合写真1枚、練習風景3枚)



(6) スポーツメンタルトレーニング相談室の開設

場所：広島大学大学院総合科学研究科 A113

予約連絡先：smt@hiroshima-u.ac.jp

概要：

広島大学ならびに学外のアスリートの心理サポートを行うことを目的として開設した。心理サポートを行う人材としては、日本スポーツ心理学会が認定するスポーツメンタルトレーニング指導士の資格制度がある。当相談室では、この上級指導士の資格を持つ広島大学スポーツ科学センター研究員（関矢寛史）が、資格取得を目指して研究と実践を積んでいる大学院生・研究生4名とともにメンタルトレーニングの指導を行った。学内の学生アスリート（体育会運動部所属）に対しては主に大学院生たちが関矢のスーパーバイズのもとで指導にあたり、学外のアスリートに対しては主に関矢が担当した。また、精神疾患等の臨床的な問題が相談内容に含まれている場合は、広島大学保健管理センターのメンタルヘルス部門およびカウンセリング部門など適切な相談機関への橋渡しが行えるようにしている。

相談役となる大学院生・研究生4名は、広島大学のピア・サポート・ルームの研修方法も参考にすると同時に専門書（マーク B. アンダーセン編，辻秀一・布施努訳，実践から学ぶ競技力アップのスポーツカウンセリング，大修館書店，2008年）を参考図書として事前に研修を積み、さらに日本スポーツメンタルトレーニング指導士会中国四国支部主催のメンタルトレーニング・フォーラムに参加して指導力の向上に努めている。平成28年度は、学内のアスリート5名、学内の競技団体2チーム、学外のアスリート6名、学外の競技団体2チームに対して心理サポートを行った。学外のアスリートは、プロ選手，オリンピック出場者，パラリンピック出場者を複数名含む。

広島大学スポーツ科学センター

スポーツメンタルトレーニング相談室

日々部活動に取り組む中で、このような思いはありませんか？

- ✓ 試合で実力を発揮したい！
- ✓ もっと自信をつけたい！
- ✓ 強い心で試合に臨みたい！
- ✓ チーム全体でモチベーションをあげたい！
- ✓ 今よりもっと強いメンタルを身に付けてステップアップしたい！

スポーツ心理学、メンタルトレーニングを学ぶ大学院生が皆さんをサポートします。

サポートの内容

専門の大学院生5名が、関矢寛史教授（スポーツメンタルトレーニング上級指導士）のスーパーバイズのもと、個別の相談やメンタルトレーニング指導、または複数名を対象としたチームへのメンタルトレーニングの取り入れ方などをアドバイスします。ぜひ気軽に相談に来てください！

サポート対象者：体育会所属部活動の部員

曜日と時間：毎週月曜日と木曜日の15時～、16時～、17時～

場所：総合科学部A113

申込：来室希望者は、下記のメール宛先に、必要事項（氏名、性別、所属している部活動名）をお知らせください。

E-mail: smt@hiroshima-u.ac.jp



V. 社会連携部門

1. 公開講座「スポーツを通じた健康学セミナー」

主 催：スポーツ科学センター

世話人：山崎昌廣（スポーツ科学センター研究員）

概 要：

テ ー マ : スポーツを通じた健康学セミナー			
概 要	<p>スポーツを行うことは、健康の維持・増進にとって重要です。しかし、その効果を十分に引き出すためには、スポーツの役割について正しく理解する必要があります。</p> <p>本講座では、スポーツ科学に関する講義およびスポーツの実践を通して、健康的な生活を営むための知識を深めることを目的としました。</p>		
時 間	14:30～17:00		
会 場	東広島キャンパス西体育館		
対 象	30名 一般		
受 講 料	無料	保険加入	有り
1回	10/4 (火)	<p>脱肥満は可能か？（講義） 健康体操（実技）</p> <p>まず、公開講座の趣旨や日程について説明しました。講義では、運動の種類によるエネルギー代謝量の違いを説明しました。実技では、中高年者を対象として開発された健康のための体操を実施しました。</p>	<p>総合科学研究科 教授 山崎 昌廣 非常勤講師 鄭 勲九</p>
2回	10/11 (火)	<p>歩行と走行の心拍数（講義・実技） 運動でこころとからだの健康づくり（実技）</p> <p>心拍数に関しては以下の内容で講義・実技を行いました。(1)運動処方強度、時間、頻度の3条件、(2)運動強度と心拍数の関係、(3)歩行走行中の心拍数の測定、(4)受講生自身の運動強度と心拍数の関係。実技では、腕や脚を中心として、運動器の機能向上のための体操をグループで楽しく行いました。</p>	<p>総合科学研究科 准教授 磨井 祥夫 非常勤講師 小田 典子</p>
3回	10/18 (火)	<p>世界のスポーツ事情（講義） 機能的な身体作り（実技）</p> <p>講義では、スポーツ種目としてバレーボールを取り上げ、バレーボール強国が取り組んでいる具体的な対策を解説し、我が国のバレーボールが再度強くなるための方策を提示しました。実技では、身体を上手に動かすことを目的として、さまざまなエクササイズを行いました。</p>	<p>総合科学研究科 教授 橋原 孝博 非常勤講師 米澤 和洋</p>
4回	10/25 (火)	<p>健康寿命を延ばすコツ（講義） 足腰トレーニング（実技）</p> <p>加齢に伴い足腰が弱り、老人になるといわゆるすり足歩行となります。講義では、すり足歩行にならないために鍛えるべき筋肉の話をしました。また、実技では足腰を鍛えるための自宅でできる簡単な運動を行いました。最後に、3回以上出席した24名の受講者に修了証書を授与しました。</p>	<p>総合科学研究科 教授 山崎昌廣 非常勤講師 鄭 勲九</p>

2. 公開講座「家でもできる健康体操」

主 催：スポーツ科学センター

日 時：平成 28 年 5 月 26 日（金）～3 月 27 日（月）

講 師：東川安雄（広島大学大学院教育学研究科）

テーマ：家でもできる健康体操

世話人：東川安雄（スポーツ科学センター研究員）

内容：

1. 健康寿命の大切さ
2. 高齢者における転倒・骨折予防の重要性
3. 自分の筋力を評価する
4. 家でもできる筋力トレーニング
5. セルフコンディショニング など

回	期日	会 場	参加人数
1	5/26	竹原市労青少年センター	48
2	6/9	府中市南公民館	23
3	6/21	広島市安芸区望ヶ丘自治会館	24
4	7/20	広島市東区特別養護老人ホーム	22
5	9/7	広島市東区総合福祉センター	33
6	9/13	広島市東区大和台集会所	28
7	9/15	東広島市吉川地域センター	44
8	9/26	東広島市八本松地域センター	30
9	9/27	江田島市大柿公民館	43
10	10/8	東広島市八本松地域センター	62
11	11/2	東広島市行貞自治会館	11
12	11/4	東広島市八本松南集会所	36
13	11/20	広島市南区段原ショッピングセンター	10
14	1/27	東広島市スポーツ交流センターおりづる	11
15	2/9	安芸郡府中町御衣尾町集会所	33
16	3/27	東広島市八本松地域センター	30
合計			488 人

写真：



3. 教職員テニス教室

主 催：スポーツ科学センター

日時：平成28年9月5日（月）～11月21日（月）までの祝日を除く毎週月曜19時～20時30分
（全10回、4回雨天中止）

場 所：広島大学第五テニスコート4面（ナイター照明付）

指導者：関矢寛史（スポーツ科学センター研究員）

広島大学体育会硬式庭球部学生4名

参加者：24名

参加費：無料

概 要：

参加者の多様な技能レベルに合わせて、初級者、経験者の2つのグループに分けて練習した。初級者グループは主に指導者による球出し練習を行い、教室の後半では対人ラリーや試合も行った。経験者グループは体育会硬式庭球部の学生も交えての対人練習や応用技能や戦術などの練習を行い、毎回後半は試合を行った。

教室終了後には参加者が幹事となり、打ち上げ（懇親会）が開催された。



4. 向原中学校メンタルトレーニング

主催：スポーツ科学センター

指導者：関矢寛史（スポーツ科学センター研究員）

学生メンタルトレーニングチーム（広島大学大学院3名，学部生1名）

参加者：向原中学校の全校生徒（毎回約80名）

実施内容：下記のとおり講義2回と実践活動4回を行った。また，メンタルトレーニング指導期間の前後に質問紙（心理的競技能力診断検査，情動的知能質問紙）を実施し効果を検証した。

メンタルトレーニング指導のスケジュール：

	日時	内容	講師	テーマ
1	4月19日（火） 14:35～15:25	講義1	関矢寛史	「人間はなぜ感情を持つのか。体から入る心のコントロール」
2	4月21日（木） 15:45～17:15	実践1	学生メントレ チーム	「コミュニケーション」
3	4月28日（木） 15:45～17:15	実践2	学生メントレ チーム	「プレッシャーや緊張を味方に」
4	5月10日（火） 14:35～15:25	講義2	関矢寛史	「心から入る心のコントロール／イメージトレーニング」
5	5月12日（木） 15:45～17:15	実践3	学生メントレ チーム	「チーム力」
6	5月26日（木） 15:45～17:15	実践4	学生メントレ チーム	上記の講義と実践の総括



5. 中高年のランニング教室

主 催：スポーツ科学センター

日 時：平成 28 年 5 月 9 日（土）～平成 29 年 3 月 11 日（土） 各日とも 10：00～12：00

場 所：広島大学陸上競技場及び周辺コース

講 師：東川安雄（広島大学大学院教育学研究科）

和田正信（広島大学大学院総合科学研究科）

世話人：東川安雄・和田正信（スポーツ科学センター研究員）

参加者：52 人

内容：

1. ランニング教室の趣旨説明
2. ランニングの基礎理論と実技
3. コース別練習（各日とも 4 グループに分かれ、参加者の経験や目標にあった練習を行った）
4. 第 36 回ひろしま国際平和マラソンへの参加
5. 第 4 回広島大学フェニックスリレーマラソンへの参加 等

写真：



6. 小学生陸上競技出前講座

主催：広島陸上競技協会

協力：スポーツ科学センター

日時：平成28年4月9日（土）～平成29年2月20日（月）

場所：広島県内小学校及び陸上競技場（33会場）

講師：東川安雄（広島大学大学院教育学研究科）

広島大学体育会陸上競技部員

世話人：東川安雄（スポーツ科学センター研究員）

参加者：延べ2,010名

内容：

1. 基本の運動（運動遊び）
2. 短距離・跳躍（走り幅跳び又は走り高跳び）・投運動から選択して練習
3. 会場別内容等

	学校名・クラブ名	希望実技	人数
1	庄原市立峰田小学校	短距離走・ハードル走・走り幅跳び	48
2	中野東陸上クラブ	短距離走・走り幅跳び・ジャベリックボール投げ	80
3	広島市西区スポーツセンター	短距離走	30
4	広島市西区スポーツセンター	短距離走	30
5	庄原市立峰田小学校	短距離走・ハードル走・走り幅跳び	52
6	庄原市	短距離走・ハードル走・走り幅跳び	34
7	安芸郡陸上競技協会	運動遊び・100m・幅跳び・80mHなど	100
9	呉市立横路小学校	投運動	121
11	福山市立春日小学校	短距離走	92
13	府中町立府中中小学校	短距離走・ハードル走・走り幅跳び走り高跳び	132
14	東広島市立河内西小学校	基本の運動・短距離走・ハードル走・跳躍運動	26
15	三原市立本郷小学校	短距離走・走り高跳び・走り幅跳び・ボール投げ	48
16	福山市立手城小学校	基本の運動	116
17	織田幹雄スポーツ振興会	走り幅跳び・短距離走	100
19	東広島市小学校体育連盟	短距離走・ハードル走・走り高跳び・走り幅跳び	100
20	三原市立幸崎小学校	低・中・高学年3回に分けて短距離走	105
22	三原市立中之町小学校	跳躍運動、短距離走	154
23	広島市西区スポーツセンター	短距離走	30
24	広島市西区スポーツセンター	短距離走	30
28	三原市立沼田東小学校	基本の運動・短距離・ハードル・跳躍・投	314
29	竹原市立忠海小学校	100m・ハードル・走り幅跳び・走り高跳び・ボール投げ	44
30	広島市立黄金山小学校	ハードル走・投運動	33
31	東広島市立吉川小学校	短距離走・ハードル走	32
32	東広島市立西志和小学校	中学年：基本の運動、高学年：短距離走	90
33	広島市立上温品小学校	投運動	69

7. JAAF 公認ジュニアコーチ養成講習会

主 催：日本陸上競技連盟

協 力：スポーツ科学センター

日 時：平成 29 年 1 月 28 日（土）・29 日（日）、平成 29 年 2 月 4 日（土）・5 日（日）

場 所：広島大学教育学部講義室及び陸上競技場

講 師：東川安雄（広島大学大学院教育学研究科）
 和田正信（広島大学大学院総合科学研究科）
 広島陸上競技協会強化委員等

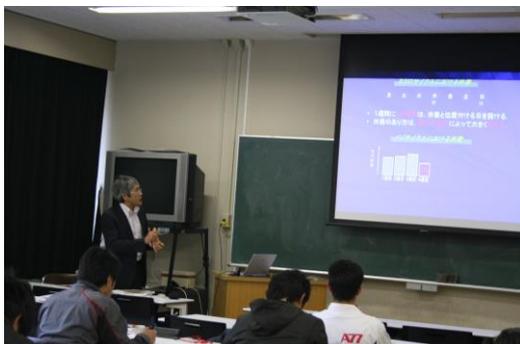
世話人：東川安雄（スポーツ科学センター研究員）

参加者：33 人

内 容：

区分	カリキュラム内容	
1.種目の特性に応じた 基礎理論	①	発育発達段階を踏まえた競技者の育成
	②	指導における各種理論
	③	陸上競技の主なルール
	④	部活動の運営と地域クラブ
2.実技指導法	①	陸上競技の種目別指導
3.実技指導演習	①	陸上競技の種目別指導の方法

写真：



8. すこやか健康セミナー

主 催：ハーティウォンツ・大塚製薬・広島大学スポーツ科学センター

日 時：平成 28 年 9 月 25 日（日）

場 所：広島県立総合体育館

講 師：東川安雄（広島大学大学院教育学研究科）

ハーティウォンツ及び大塚製薬社員

世話人：東川安雄（スポーツ科学センター研究員）

参加者：42 人

内 容：

1. ロコモ診断テスト
2. ロコモ予防セミナー
3. ロコモ予防体操

等

写真：



9. バウンドテニス体験会

日 時：2016年10月10日（月） 10：30～12：30

場 所：東広島運動公園（アクアパーク）体育館（東広島市西条町田口）

対 象：一般市民

主 催：東広島市教育委員会，東広島市体育協会，（公財）東広島市教育文化振興事業団

講 師：広島大学スポーツ科学センター 磨井 祥夫（総合科学研究科）

広島県バウンドテニス協会指導員 8名

内 容：

東広島市教育委員会は、体育の日記念行事「アクアパークチャレンジスポーツ」をアクアパークで開催している。

体育の日記念行事 アクアパークチャレンジスポーツ

主催：東広島市教育委員会 東広島市体育協会 （公財）東広島市教育文化振興事業団
共催：東広島市スポーツ推進委員協議会 東広島市スポーツ少年団

参加者は、午前の部と午後の部の2時間ずつの間に様々なスポーツを自由に体験して回ることができるイベントである。広島大学スポーツ科学センターは午前10：30からバウンドテニスを担当した。実技指導は広島県バウンドテニス協会の公認指導員の方々にお手伝いをお願いした。バウンドテニスの参加者は、幼児25名、小学生65名、中学生1名、一般45名の計136名であった。

バウンドテニスの体験は15分を1レッスンとし、これを8回繰り返した。各回で、参加申し込みのグループにしたがって4グループに分け、それぞれが1コートを使って練習をした。1コートは8名以内とした。講習の初めに大きなスポンジボールを使ってボール感覚を把握できるようにした。その後、公式ボールを使って練習をした。グループにより習得度に大きな差があったが、指導員の丁寧な指導により、参加者はバウンドテニスを十分に楽しんだようである。

体験後にアンケート調査を行い126名が回答した。設問の回答は4件法とした。「楽しかったか」および「機会があればまたやりたいか」については、肯定的回答（1，2）が100%であった。「上手にできたか」については、肯定的回答（1，2）が94%であった。自由記入欄もすべてが肯定的な感想であった。以下は感想の一部である。「家族と楽しめてよかったです。やさしいスポーツなのですぐに動きました」「ていねいな指導で、子供も大人も楽しめた」「小スペースで出来て、良いスポーツだと思います。東広島にクラブがあればいいなと思います」「コートが小さくても逆に運動量が増え、またやってみたいです」



10. オリンピック金メダル第1号「織田幹雄」特別展

主 催：広島大学スポーツ科学センター

協 力：海田町

日 時：平成28年7月25日（月）～7月30日（金）

場 所：広島大学図書館「地域・国際交流プラザ」

世話人：東川安雄（スポーツ科学センター研究員）

参加者：延べ75人

内 容：東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会と全国の大学・短期大学は連携協定を締結し、2020年の大会に向けて、オリンピック・パラリンピック教育の推進やグローバル人材の育成、各大学の特色を活かした取り組みを進めていくこととなっています。広島大学では、日本人オリンピック金メダリスト第1号の織田幹雄氏（大正12年広島高等師範学校入学）の遺品を展示し、先人の偉業を偲ぶとともに、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、地方から機運を盛り上げるため、以下のとおりパネル展示を行いました。

写真：



《諸会議》

I. スポーツ科学センター教員会・部門長会議

会議名	期 日	場 所	議 題
教員会	平成 28 年 5 月 26 日 (木)	教育学 研究科	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年度センター研究員について ・平成 27 年度事業報告及び決算について ・平成 28 年度事業計画及び予算案について ・その他
部門長会議	随時	メール 審議	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年度事業計画及び予算案について ・センターの業務について

《組 織》

I. スポーツ科学センター研究員

部 門	役 職	名 前	部 局	職 名
	センター長	出口 達也	教育学研究科	教授
	副センター長	関矢 寛史	総合科学研究科	教授
教 育	部門長	木庭 康樹	総合科学研究科	准教授
	研究員	船瀬 広三	総合科学研究科	教授
	〃	齋藤 一彦	教育学研究科	教授
	〃	磨井 祥夫	総合科学研究科	准教授
	〃	長谷川 博	総合科学研究科	教授
	〃	岩田昌太郎	教育学研究科	准教授
研 究	部門長	長谷川 博	総合科学研究科	教授
	研究員	山崎 昌廣	総合科学研究科	教授
	〃	加藤 荘志	国際協力研究科	助教
	〃	大塚 道太	教育学研究科	助教
課外活動	部門長	上田 毅	教育学研究科	教授
	研究員	橋原 孝博	総合科学研究科	教授
	〃	沖原 謙	教育学研究科	教授
	〃	黒坂 志穂	教育学研究科	准教授
社会連携	部門長	東川 安雄	教育学研究科	教授
	研究員	和田 正信	総合科学研究科	教授
	〃	福田 倫大	教育学研究科	助教

(平成 28 年 4 月 1 日現在)